



徳島県立海部病院

2017.5
広報
Vol.22

[特集] 新病院 平成29年5月8日開院!

CONTENTS

新病院フロア案内

INFORMATION

地域包括ケア病床の導入



平成29年5月8日(月) 新・海部病院がオープンします!

新病院基本情報

所在地 〒775-0006 徳島県海部郡牟岐町大字中村字杉谷266番地

敷地面積 9,283㎡(海拔約15.6m)

延床面積 10,759㎡(旧病院の約1.9倍)

鉄筋コンクリート造6階建て(免震構造)

屋上ヘリポート(ヘリ最大荷重10t)

駐車場 183台(平面駐車場16台、立体駐車場167台)

屋上ヘリポート(ヘリ最大荷重12t)

※旧病院から西へ約500mの高台へ移転

ご挨拶

当院は、南海トラフ巨大地震による津波被害への抜本的対策として、公立病院初の高台への移転改築工事を進めておりましたが、このたび地域や関係者の皆様の御支援、御協力により竣工・開院の運びとなり、新たな「県南地域の皆様の命を守る拠点」として生まれ変わることになりました。

新病院では、「免震構造」を採用し、病院屋上には「太陽光発電設備」や「ヘリポート」を整備するとともに、屋上部分を災害時用の「ヘリポート」として活用する「立体駐車場」を併設しております。これにより、平時には、Kサポート（遠隔診療支援システム）と併せて、新たに「ドクターヘリの運航」による救急医療の強化が図られるとともに、災害時には負傷者や物資の大規模搬送が可能になるほか、4階病棟等を被災患者を受け入れる「災害病棟」や「災害時ICU」として運用することで、医療機能をシームレスに移行できる「先端災害医療拠点」を構築いたしました。

さらに、「冠動脈造影検査」が可能となるCT等の専門医療機器の導入をはじめ、病床1床当たりの床面積を1.5倍の広さにするとともに個室も大幅に増加し、快適な療養環境を提供することにしております。

また、将来の地域医療を担う若手医師の研究・研修・実習の拠点となる「地域医療研究センター」の機能を拡充することにより、「海部・那賀モデルの中核病院」として、住民の皆様の安全・安心を守る地域医療の提供を支えて参ります。

今後とも、地域の皆様からの期待に応え、「地域に寄り添い信頼される病院」として、また、医師をはじめ医療スタッフからは、「魅力があり選ばれる病院」となることを目指して、全職員が一丸となり、「県民医療の最後の砦」としての役割をしっかりと果たして参ります。なお一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

徳島県立海部病院長 坂東 弘康

新病院フロア案内

1F

エントランスホールに設置した陶板「地域医療の輪」は、徳島県立病院（中央病院、三好病院、海部病院）の医療連携をトライアングルで表現し、それぞれの病院からの医療の広がりや波紋で表しています。



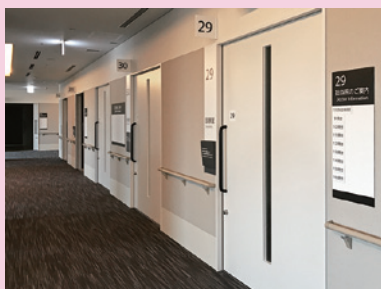
受付・会計



X線CT診断装置



エントランスホール陶板



外来診察



骨密度測定装置

2F



講堂



リハビリテーション室



立体駐車場（1・2階 患者様用）

屋上

病院棟と立体駐車場の屋上にヘリポートを構えた「ツインヘリポート」。
ドクターヘリや救難ヘリの運航に使用します。



ヘリポート(病院棟屋上)



太陽光パネル

4F・5F 病棟



病室(4床室)



分娩室



病棟からの眺め



ドクターヘリ



	平常時	災害時
PH	ヘリポート(10t対応) 重傷者搬送 太陽光発電	
6F	屋上機械置場	災害倉庫
5F	病棟	「入院患者病棟」 110人以上対応 入院患者を配置
4F	病棟 分娩室	「災害病棟」 災害時ICU 110人以上対応 災害用備品倉庫
3F	地域医療研究センター 医局 事務局	「災害対策本部」 衛星電話 GPS携帯電話対応
2F	手術室 栄養科 リハビリテーション室 講堂	治療・受入れ 緊急手術 非常食調理
1F	受付・会計 総合案内 外来診察室 薬剤科 検査技術科 放射線科 地域支援室 コンビニ 等	「緊急治療フロア」 1次トリアージ~集中治療 災害用備品倉庫 備蓄薬品

3F

徳島大学と徳島県が共同で、地域医療に貢献できる医療人材の育成等を目的に開設した「地域医療研究センター」。
医師や医学生の研究拠点となる環境の整備を行っています。



地域医療研究センター 研修室

急性期治療後に経過観察やリハビリが必要な患者様の在宅復帰を支援する「地域包括ケア病床」を導入しました。



病床 10床 (新病院4階)
入院日数 入室後60日以内



Q 地域包括ケア病床とは？

A 地域包括ケア病床とは、一般病棟で急性期の治療を終えた後、経過観察が必要な場合や、在宅復帰に向けたリハビリが必要な患者様に、継続的な医療を提供するための病床です。当院では、平成29年2月に当該病床を導入し、患者様が退院準備をしっかりとて、安心して自宅に帰れるように支援しています。

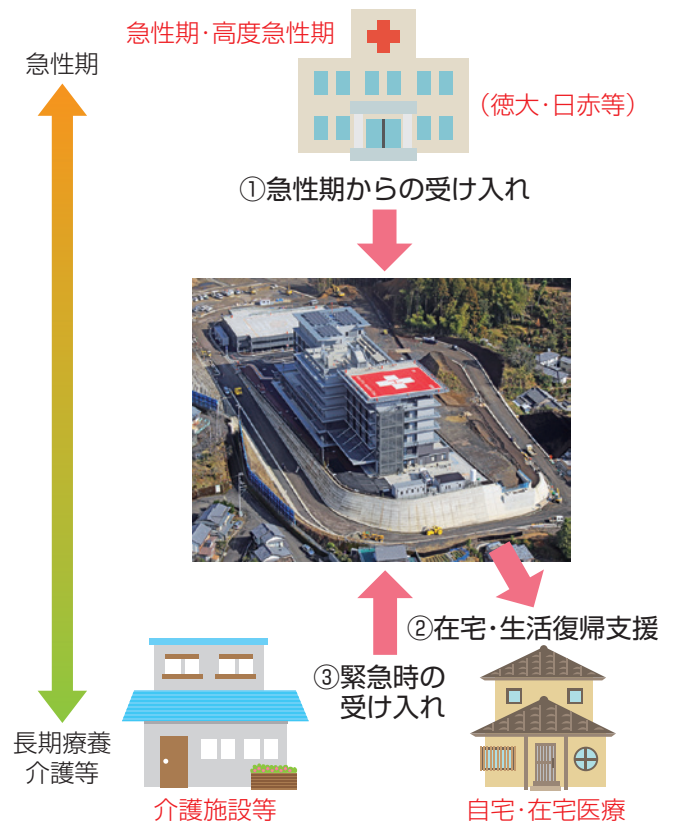
Q どんなリハビリをしているの？

A 在宅復帰に向けリハビリが必要な方に、歩行や階段昇降、トイレ動作、更衣等のADL(日常生活動作)訓練を実施しています。入院生活においては、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士はもとより、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等が連携し、患者様の在宅復帰や社会復帰をサポートしています。

Q 在宅復帰へ向けての支援は？

A 当院では、地域支援室を中心に、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等の院内の医療チームと、地域のケアマネジャー等が連携して、退院後も患者様に必要な医療・看護が提供できる「在宅療養環境の整備」に努めています。退院前には、患者様やご家族に対して、食事、運動、服薬等の指導を行うとともに、医療材料や福祉用具等の在宅療養に必要な物品の調整等も行っています。

地域包括ケア病床の主な役割のイメージ



県立病院基本理念

県民に支えられた病院として、県民医療の最後の砦となる

発行 平成29年5月

徳島県立海部病院広報委員会

〒775-0006 徳島県海部郡牟岐町大字中村字杉谷266番地(新病院)

☎0884-72-1166(代) FAX:0884-72-3521

HP: <http://133.242.186.80/>

海部病院

検索

